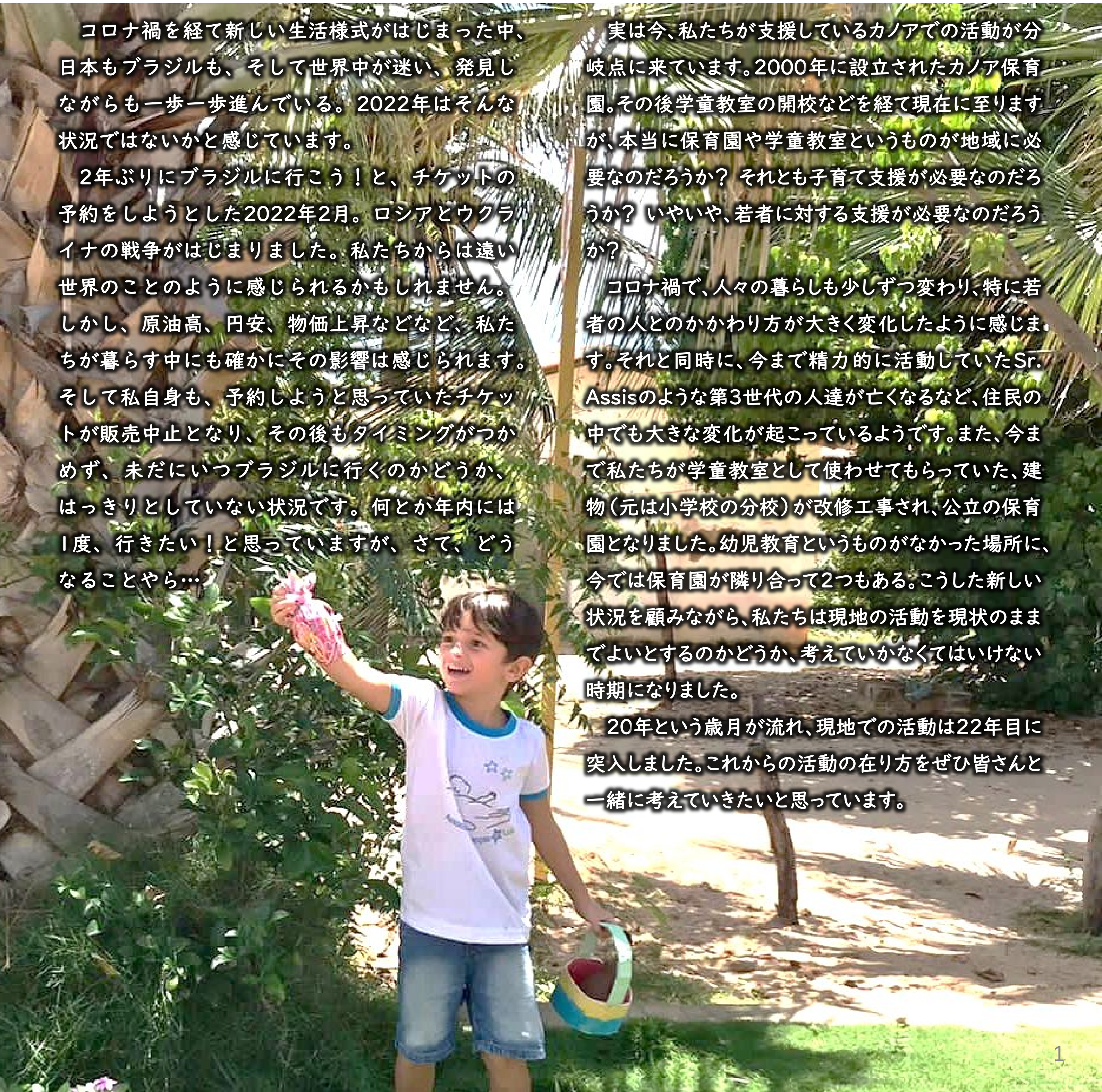
CANOA

だより70

July
2022

文・写真_鈴木真由美　編集__星久美子・真野由紀　発行__光の子どもたちの会
Praia do Estevão s/n, Canoa Quebrada, Aracatí-CE-Brasil CEP:62800-000
連絡先：info@criancasdeluz.org



　コロナ禍を経て新しい生活様式がはじまった中、日本もブラジルも、そして世界中が迷い、発見しながらも一歩一歩進んでいる。2022年はそんな状況ではないかと感じています。

　2年ぶりにブラジルに行こう！と、チケットの予約をしようとした2022年2月。ロシアとウクライナの戦争がはじまりました。私たちからは遠い世界のことのように感じられるかもしれません。しかし、原油高、円安、物価上昇などなど、私たちが暮らす中にも確かにその影響は感じられます。そして私自身も、予約しようと思っていたチケットが販売中止となり、その後もタイミングがつかめず、未だにいつブラジルに行くのかどうか、はっきりとしていない状況です。何とか年内には1度、行きたい！と思っていますが、さて、どうなることやら…

　実は今、私たちが支援しているカノアでの活動が分岐点に来ています。2000年に設立されたカノア保育園。その後学童教室の開校などを経て現在に至りますが、本当に保育園や学童教室というものが地域に必要なのだろうか？ それとも子育て支援が必要なのだろうか？ いやいや、若者に対する支援が必要なのだろうか？

　コロナ禍で、人々の暮らしも少しずつ変わり、特に若者の人とのかかわり方が大きく変化したように感じます。それと同時に、今まで精力的に活動していたSr. Assisのような第3世代の人達が亡くなるなど、住民の中でも大きな変化が起こっているようです。また、今まで私たちが学童教室として使わせてもらっていた、建物（元は小学校の分校）が改修工事され、公立の保育園となりました。幼児教育というものがなかった場所に、今では保育園が隣り合って2つもある。こうした新しい状況を顧みながら、私たちは現地の活動を現状のままでよいとするのかどうか、考えていかなくてはいけない時期になりました。

　20年という歳月が流れ、現地での活動は22年目に突入しました。これからの活動の在り方をぜひ皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

「光の子どもたちの会」の卒業生

翻訳：鈴木真由美

国際ユース研修プログラムに参加したイザベル。
その経験について、再度メッセージを寄せてもらいました！

この９ヶ月の間に、私の人生は大きく変わりました。国際リーダープログラム「Warrior Without Weapons」に参加することが叶い、さらに、地域や社会を変える仕事をすることになりました。サンパウロ市にある「モンチアズール・コミュニティー協会」で働くチャンスが私に訪れたのです。

ある日、友だちから一本の電話がかかってきました。「モンチアズール・コミュニティー協会」の学童教室のスタッフに空きがあるというのです。「それはあなたのためにあるんだよ」と。空きがあるというのは、「ペイーニャ」というモンチアズールとは異なるファヴェーラ（スラム）の教育指導員で、10〜12歳までの30人の子どもたちのクラスを受け持つというものでした。今まで私が子どもたちに教えた経験といえば、カノア保育園や学童教室で、週に１回リコーダーの授業をボランティアとして受け持っていたときだけです。それからもう６年の歳月が流れていました。今回の経験は今までとは全く異なるものとなるのではないか。それでも、今まで一度も見たことのない子どもたちと、全く知らない、誰も知らない地域での仕事に、私は挑戦することにしたのです！

Isabel Santos Rocha（イザベル）

私は「Warrior Without Weapons」のプログラムに参加できるということで、自分自身の将来に素晴らしいことが起こると感じていました。それと同時に、新しい仕事の機会をもらいました。それは私が全く想像していなかったものでした。すでに数年前から、私が幼少期に学校や学童教室の先生やボランティアの人たちから学んだことを社会に返したいという思いをもっていました。

しかし、不安はありました。まだ大学を出てもいない私がきちんと仕事をできるのだろうか。だけど、子どもたちと一緒に過ごし、彼らと一緒に地域のために何かよいことをしたい。そしてその一端を私が担うことができれば、それはどんなにうれしいことだろうか。

今、「ペイーニャ」での仕事を始めて３ヶ月になります。私の夢は毎日、子どもたちと一緒に叶えられているような気がしています。

地域で30人の子どもたちを相手に働くことはとても嬉しく、また毎日が挑戦です。多くの子どもたちは難しい状況の中で生活しており、貧しい生活を強いられています。私が送ってきた幼少期と彼らのあいだには、大きな違いがあります。たとえ私が生まれた場所がセアラ州の小さな貧しい漁村であったとしても。

ときに私は勇気を振り絞る必要があります。自分を鼓舞し、子どもの家族を批判することなく、心を開いて共感し、理解していく。それでも、悲しくて涙を流してしまうこともあります。子どもたちの現実はとても重く、だから自分に問いかけます。「私は彼らにいったい何ができるのだろうか？」

今日、私はサンパウロ市のモンチアズールというファベーラに住み、この地域で生きて、学んでいます。子どもたちは私にレジリエンスや希望、他者への愛についてたくさん教えてくれます。世界はより良いものになっていくと信じることを日々学んでいます。現実は常に想像した通りになるとは限りません。それでも私は、彼らに可能性があることを信じさせてあげたい。自分自身を愛し、敬うことができるのだということを。そして、そのことがもう、社会を変える一歩なのだということを。

こうした経験はすべて、「Warrior Without Weapons」に参加した結果の一部であると考えています。私個人の自主性や敬う気持ちが「ペイーニャ」という地域を、人々を、子どもたちを育む一部になることができるのだと思います。

このプログラムは世界や人々、私自身の見方を教えてくれました。こうしたことや他のことも含めて、このプログラムというのはとても特別なものなのです。ただの研修プログラムではない、一つの学校のような、多様性を認め合う文化やブラジルと世界の異なる地域について教えてくれる、人生の学校のようなものではないかと感じています。

子どものときから今までの人生を振り返るということはとても貴重な体験です。生まれ育った故郷を離れて暮らす中でも、私の中にはカノアでの幼少期の経験や体験が生きています。私の幼少期は本当に素晴らしいものだったといつも感じています。だからこそ今、私は、芯のある一人の人間となり、創造性豊かに夢を見ることができるのです。

22歳になったばかりですが、今までの人生でこれほど「生きている」ということを強く感じていたときはありません。

今必要とされているところに私はいるのだ。だからこそ、そのことに感謝し、夢を実現させたいと思っています！

子育て日記より

我が家の娘たちは３歳半違います。長女は高校３年生、次女は中学３年生になりました。なんと、W受験です！二人とも日本の学校に行きたいといっているので、下調べなどなど娘たちと一緒に悩む日々が続いています。
娘たちがまだ小さかった頃、日本とブラジルを行き来していると言うと、「小さな子どもを抱えて大変だね」と皆さんが声をかけてくださいました。でも実は、二人を連れての旅が大変だと感じたことは一度もありませんでした。二人が中高生となり、それぞれが自分たちの道を歩み始めると、私一人のスケジュールや計画で動くことが難しくなり、優先順位を付けながら、二人と私の予定を考えつつ、動かなくてはなりません。そうなると、今までのように簡単にブラジルに行く！というわけにもいかず、どの時期にどのくらいブラジルに行くことができるのかを、計算しなくてはならないのです。これがなんとも難しい！

「あの頃はよかったなぁ～ 」娘たちの幼き日々を思い返しながら感じる今日この頃です。

国内活動＊Atividade no Japão

SDGsよこはまCITY冬　～エステーヴァン村の一日を体験～

　2022年2月20日に「SDGｓよこはまCITY冬」というイベントに参加しました。今回もオンライン開催となったこのイベントでは、エステーヴァン村の一日を体験していただくツアーとブラジル料理教室を開催しました。

　オンラインツアーというのはなかなか難しく、参加している人たちに自分たちが本当に旅をしているような気分になってもらえるよう、配慮しました。が、なかなか難しいですね。限られた時間の中、現地から送られてきた動画での開催。オンラインに慣れてきたとはいえ、まだまだ反省の多いものとなりました。それでも、カノアの海や砂丘、夕日などを眺めてもらうことが、少しでも、今のこの難しい世界情勢の中で生きる皆さんの生きるための元気となっていたら嬉しいです。

第16回 総会
オンライン報告会を開催しました！

　2022年３月26日、もう３度目になるのでしょうか。オンラインによる総会が行われました。今回はカノア保育園の卒園生で、ドイツ在住のViviane Andrade（ヴィヴィアーニ）の話を聞くという企画で、ドイツ、司会進行のIsabel Rocha（イザベル）はブラジル、そして私たちは日本から参加し、３カ国をつないでの報告会でした。

　ブラジル北東部の小さな漁村で生まれ育った彼女たちが、今、どこで、何をしているのか。そして今、故郷についてどんなことを感じ、思っているのかを語ってもらいました。その中で印象的だったのは、今、エステーヴァン村の10代の若者に対する心配の声でした。

　「自分たちがいたときは学童教室があり、卒業してからも先生に相談できたし、お手伝いをしたり、ボランティアと活動したりと、学校以外の場所でも活動する場があった。自分の意見を言えてやりたいことを実施できる空間があったけど、今はそれがない。それぞれが孤立していて、手にはスマホを持ち、周囲とつながるという意味が異なってきているように感じる」

　報告者のVivianeは今、ドイツの大学に在籍しており、教育学部の最終学年ということで、今は卒業論文を書きながら“森の幼稚園”に勤め始めているとのことでした。自分たちが生まれ育ったような自然豊かな場所で子どもたちが育っていく姿を見ていると、自分の幼少期に経験してきたものがどれほど今の人生に影響を与えているか、人としての基盤となっているかについて語ってくれました。

　カノア保育園の卒園生は100人を超えます。彼らが今、何を感じ、どう過ごしているのか。これからも皆さんに報告できる機会を持つことができたら幸いです。

↑左端がViviane

カノアニュース＊Novidade em Canoa

●カノアの今後について、アンケートのお願い

←こちらからお答えください！

コロナ禍の影響で今までのような支援を得られにくい状況になっています。また、2021年度は助成金を得ることができず、活動費が不足しています。そして今後改善されていくのかどうかが分からず、今の世界情勢を見ていると難しいのではないかと考えられます。

分岐点を迎える私たちにぜひ知恵をお貸しください。

下記４つだけでなく、こんな方法もあるのでは？　という意見も大歓迎です。皆様からのお返事をお待ちしております。

1. **カノア保育園及び学童教室を引き続き運営していく**
2. **カノアの活動をアラカチ市の委託事業とする**
3. **カノア保育園及び学童教室ではなく、子育て支援センターにする**
4. **若者に対する支援事業を行う**

１の場合：現在常勤でいる教職員６名の内２名はアラカチ市職員ですが、４名は当団体の支援により給与が支払われています。そのため、寄付等の支援金が減少している中、また、ブラジルの教員の基本給与が上昇したことや円安なども含め、職員を２～３名に減らす必要があります。

２の場合：資金を全面的に確保できますが、私たちが行ってきた教育理念を貫くことは難しく、教職員も市の職員となるため、現在私たちが給与を支払っている４名が引き続き働くことができる保証はなくなります。

３の場合：カノア保育園及び学童教室は閉鎖するものの施設は残るので、職員を数名配置し、アラカチ市政府と連携して相談窓口の開設や、専門家とのつながり及びネットワークの構築を中心に実施していくことになります。

４の場合：カノア保育園及び学童教室を閉鎖し、私たちの強みである妊産婦から乳幼児期を対象とするのではなく、今の時代に生きずらさを感じている若者に焦点を置き、その支援を実施していきます。

●「ほいくis」コラムを掲載しています！

「１日３分で保育を楽しく」をモットーに、オンラインで保育士向けの情報を提供している「ほいくis」。立ち上げのときに声をかけていただき、コラムを連載させていただくようになりました。カノア保育園がどうやってつくられたか、地域の行事や子どもとの関りなどだけでなく、私が保育士として伝えたいことも、その時のテーマにそって お届けしています。お時間のある時にぜひ読んでみてください！　ご意見や感想もお待ちしています。

最新コラムは
こちらから➡➡

●JICA草の根技術協力事業、第３フェーズ が 2022年7月より開始されます！

2013年３月より、私たちはJICA草の根技術協力事業をブラジル国セアラ州アラカチ市で実施してきました。その集大成ともなる今回の第３フェーズでは、秦野市教育委員会と協働で事業を実施することとなります。

第１フェーズでは、JICA草の根技術協力事業「ブラジル東北部子育て支援体制強化による地域向上プロジェクト」を実施しました。カノア・ケブラーダの地域住民と各行政機関が連携して、子育てに係る問題解決に取り組むために創設された「地域子育て支援ネットワーク」は、UNICEFセアラ事務所から高い評価を受け、2022年現在ではUNICEFによってブラジル国内による他地域への展開が始まっています。また、第２フェーズで実施した「ライフスキルトレーニング」では、アラカチ市の公立小中学校の教員に対する研修を実施し、教科にとらわれない、今、子ども達に必要なテーマを学びとして取り組んできました。そんな中、日本でも小学校では2018年度、中学校では2019年度に道徳が特別な教科として位置づけられました。そこで、日本における道徳の学びをブラジルの小中学校でも生かしていきたいと考え、神奈川県秦野市教育委員会と協働で、2022年７月より２年間、「ライフスキルトレーニング（LST）持続発展のための組織力向上プロジェクト」を実施することになりました。そして今回の事業では、ブラジルの公立小中学校における教員の質の向上として、授業研究を取り入れるべく、ブラジル北東部アラカチ市の教員２名に対する神奈川県秦野市への招へいを実施する予定となっています。本事業を通して、日本とブラジルの交流にも努めていきたいと考えています。

活動計算書

2021 年　1 月　1 日　～　2021 年　12 月　31 日　まで

（単位:円）

科　目	金　額		
Ⅰ 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	115,000	115,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	1,382,877		
学資支援費	12,000		
修繕支援金	0		
サッカー支援金	0		
音楽支援金	0	1,394,877	
3. 受取助成金等			
ゆうちょ財団	0		
横浜NGOネットワーク	20,000	20,000	
4. 事業収益			
物品販売	55,763	55,763	
5. その他収益			
受取利息	0	0	
経常収益計			1,585,640
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
給料手当	1,192,257		
人件費計	1,192,257		
(2)その他経費			
保育園事業	32,076		
音楽支援事業	0		
施設維持費	22,142		
学資支援費	98,134		
ゆうちょ財団	663,187		
森村豊明会助成金	910,745		
その他経費計	1,726,284		
事業費計		2,918,541	
2. 管理費			
(1)人件費			
人件費計	0		
(2)その他経費			
雑費	17,939		
その他経費計	17,939		
管理費計		17,939	
経常費用計			2,936,480
当期正味財産増減額			△ 1,350,840
前期繰越正味財産額			1,396,704
次期繰越正味財産額			45,864

活動予算書

2022年1月1日から2022年12月31日まで

法人の名称　特定非営利活動法人　光の子どもたちの会

（単位：円）

科目	金額		
Ⅰ 経常収益			
1．受取会費			
正会員受取会費	300000	300000	
2．受取寄附金			
受取寄附金	1700000	1700000	
3．受取助成金等			
	0	0	
4．事業収益			
国際協力事業（物品販売）	100000	100000	
5．その他収益			
受取利息	10	10	
経常収益計			2100010
Ⅱ 経常費用			
1．事業費			
（1）人件費			
給料手当	1500000		
人件費計	1500000		
（2）その他経費			
教育支援事業			
保育園及び学童教室食材費	30000		
保育園及び学童教室教材費	30000		
保育園及び学童教室施設維持費	30000		
保育園及び学童教室学資支援費	120000		
国際協力に関連する教育分野の普及啓発事業			
原稿・講師謝礼	30000		
会場費	5000		
雑費	5000		
国際交流事業（事業報告会等の実施）			
会場費	5000		
雑費	5000		
国際協力事業（物品販売）			
会場費	5000		
雑費	5000		
支援寄付金	10000		
その他経費計	280000		
事業費計		1780000	
2．管理費			
（1）人件費			
人件費計	0		
（2）その他経費			
雑費	100000		
その他経費計	100000		
管理費計		100000	
経常費用計			1880000
当期正味財産増減額			220010
前期繰越正味財産額			45864
次期繰越正味財産額			265874

ありがとうございます＊Obrigado

2022年1月1日～2022年6月20日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

2021年度は助成金を頂くことができず、現地での活動も厳しい状況が続いております。「＃今できること」として、現地では6月15日にFesta Junina（6月の祭り）の中でバザーを開催しました。

引き続きご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

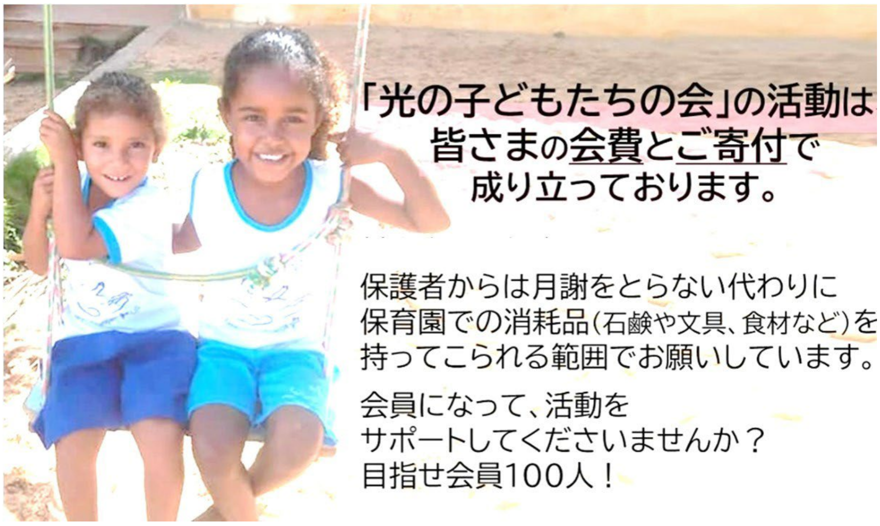
目標会員100名！！！

会費及び寄付を頂きました皆様(順不同)

安藤一樹 さま、石田泰三 さま、石田まどか さま、鵜澤聡明 さま、大庭富美香 さま、川原翼 さま、桑山寛子 さま、合志千尋 さま、定形澄江 さま、定森徹 さま、諏訪田あつ子 さま、たかはしベン音楽事務所 さま、レインボーリーブス 瀧川佐和子 さま、富田ようこ さま、馬場悠男 さま、堀池眞輔・ミツ子 さま、三浦佐千夫 さま、森山由美子 さま、吉田可南子 さま

物資支援を頂きました皆様(順不同)

平塚えれな　さま



会費・ご寄付の振込は STORESから できます！

https://criancasdeluz.stores.jp/

くわしくは こちら！

年会費(5,000円)・ご寄付のお振込み方法

1．自動引き落とし

お持ちの口座の金融機関で手続きができます。引き落とし日、金額をご指定いただけます。尚、ゆうちょ銀行からお振込の場合は以下の【2．郵便振替】と同じ口座番号ですが、他金機関からの振込の場合には、【3．ゆうちょ銀行振込】の口座番号となりますのでご確認ください。

2．郵便振替

口座番号　00280-1-41787
加入者　光の子どもたち・カノアの活動を支える会

3．ゆうちょ銀行振込

名義　光の子どもたちの会　店名　〇二八（ゼロミハチ）
店番号　９２８　普通　口座番号　5552594

http://criancasdeluz.org/inicial/index_jp.html

問い合わせ先：
代表　鈴木真由美　／　日本事務局　藤田枝美
〒223-0056 神奈川県横浜市港北区新吉田町5338-23
FAX 045-594-5830　info@criancasdeluz.org